



## 第47回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会

第47回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会〔主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・全国高等学校体育連盟剣道専門部・日本中学校体育連盟剣道競技部〕を10月7日（土）～9日（月・祝）の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで実施した。本研修会は、参加者の要望に応える形で長く行っていた1月4～6日開催から初めて10月に時期を移行しての開催となった。

今回は特別講師・講師・助講師27名、参加者85名（高等学校46名・中学校39名）が集まり、高等学校及び中学校における部活動の理解を深め、剣道の専門的な知識と技術の充実を図り、もって指導者の資質向上に寄与する目的で開催した。

### ■1日目（10月7日）

開講式では、和田健<sup>わだたけし</sup>日本武道館振興課長、土崎祐一郎<sup>つちざきゆういちろう</sup>全国高等学校体育連盟剣道専門部部長が主催者挨拶を、谷勝彦<sup>たにかつひこ</sup>講師が講師代表挨拶をそれぞれ述べた。

開講式終了後、スポーツ庁地域スポーツ課より奥田敬子供<sup>おくたけいこ</sup>の体力向上推進専門官を特別講師として招き『部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ環境の整備について』と題して講演が行われた。「学校数の減少があるが、それ以上に進む少子化で部活動の存続が困難な状況にある。部活動への参加率も減少傾向にあり、競技別生徒数で比較すると平成25年から令和4年では柔道が約32%、剣道は約27%が減少している。このような

状況下でも将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しめる機会を確保するため、まずは休日における地域の環境整備を着実に推進していき、進捗状況などを検証し、段階的な体制の整備をする。令和5～7年度を改革推進期間としてさらなる改革を進めていきたい」と行政としての取り組みを説明した。

その後、大道場では実技指導法<sup>じまきよしうほう</sup>を寫末秀一<sup>なまきよしひさ</sup>講師が行い、礼法、基本指導として構え、足さばき、素振り、打突の仕方、打たせ方、受け方の基本打ち（前進後退・左右面の開き足）を指導した。「素振りをする際、振り上げた剣先が下がりにすぎないように注意すること」と解説した。

実技研修では、谷勝彦<sup>たにかつひこ</sup>講師が切り返し、基本打ちを指導した後、掛かり稽古、講師が元立ちとなり指導稽古（地稽古）、最後に切り返しの追い込み稽古を行った。

### ■2日目（10月8日）

先週まで続いていた連日の猛暑から一転、秋を乗り越して冬の訪れを感じさせるような肌寒い朝を迎えた。6時から行われた朝稽古では、講師・助講師が元立ちとなり地稽古を行い、全員で汗を流した。

午前中は、日本剣道形の指導では、谷講師から「正座する時とそこから立ち上がる時で居る位置が変わらないようにする。袴を巻き込まないように座る時に見えないところで持ち上げて座るなど、細かい所作から意識することが大切である」と説明した。



奥田特別講師による基調講演



寫末講師による実技指導法「基本動作 構え」



谷講師が形の所作の大切さについて解説した

続いて、木刀による剣道基本技稽古法<sup>やまなか</sup>では山中洋介<sup>やまなかようすけ</sup>講師から「指導者として伝えるべきことを具体的にわかりやすい表現で声かけをすることに配慮してほしい」と述べた。

午後からは高体連と中体連の班別に分かれて審判法を行った。寫末講師から「試合では反則に目がいきがちだが、あくまでも有効打突を最優先に考えてほしい。2人の試合者が視界に入る位置取りをして、先入観で試合を裁くことがないように心掛けてほしい。審判の判断がよければ、試合がよくなる」と審判員の役割の重要性を示した。

中体連班では茂木良文<sup>もぎよしあき</sup>講師から審判旗の取り扱い方について「大会における審判長からの指示がない時など、バラバラの動きをすると気持ちが揃っていないように見えてしまうことがある。事前に試合場や審判員3人での共通理解を図ることが大切である」と指導があった。

実技研修では、谷講師による指導のもと、切り



山中講師による「木刀による剣道基本技稽古法」の指導



情報交換会



実技研修では参加者が講師に積極的に掛かっていった

返し、打ち込み稽古、掛かり稽古を行ったのち、講師が元立ちとなつての指導稽古、追い込み打ちが行われた。最後に山中講師が講評を述べて終了した。

夕食後には、研修室で情報交換会が行われ、土崎祐一郎<sup>つちざきゆういちろう</sup>講師が体罰、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等の防止について説明をした。続いて、班別に分かれて今後の部活動のあり方について、情報交換を行った。

### ■3日目（10月9日）

最終日は総仕上げとして、回り稽古や指導稽古の実技研修を行った。

その後、閉講式では参加者を代表して辻純二<sup>つじじゆんじ</sup>教諭（山梨県甲州市立松里中学校）が修了証を受け、続いて、寫末講師が講師講評を、山下克久<sup>やましたかつひさ</sup>日本中学校体育連盟剣道競技部長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。